

もしもぼくだったら

一宮市立西成小学校二年

小澤 奏仁

ぼくは、元気です。でも、まわりには、びょう気やけがをしている人が、たくさんいます。お年よりも、たくさんいます。

夏休み、ぼくが電車にのった時に、車いすにのった人が、同じ電車にのってきました。けれども、一人でのることができず、えきいんさんに、ホームと電車との間にいたをおいてもらい、車いすをおしてもらってました。ぼくは、たいへんだなあと思いました。

ぼくは、ぼくにはできるけれど、車いすにのっている人ができないことを考えてみました。みんなといっしょに歩いたり走ったり、うんどうしたりあそんだりすることができません。ころんでも、一人でおき上がれません。できることは、ほかにもたくさんあります。ほんたいに、車いすにのっている人ができて、ぼくにはできないことを考えてみました。でも、思いつきません。ぼくは、車いすで生活している人が、かわいそうだと思います。

二〇二〇年、東京でオリンピックとパラリンピックがあります。ぼくはパラリンピックとオリンピックのちがいを知りませんでした。しらべてみると、パラリンピックは体にしようがいのある人がきょうぎをしてメダルをめざしているものとわかりました。パラリンピックとオリンピックは、マークもちがうし、メダルもちがいます。パラリンピックのメダルは、目が見えない人でも色がわかるように、音が鳴るそうです。ぼくは、パラリンピックにきょうみもちました。

交通ここで右足をなくしたIさんという男の人が、ぎ足をつけてパラリンピックをめざしていることを知りました。Iさんは、じこでとつぜん右足をなくし、いたくてないてばかりいたそうです。でも、まわりの人がIさんを見てかなしんでいることに気づき、自分が元気になってみんなをえがおにしたいと、ぎ足をつけ、パラリンピックをめざして走れんしゅうをはじめました。ぼくも、かた足で歩いたりかいだんを上ったりしてみました。体がすこくつかれて、足がいたくて、うごくのがいやになりました。

Iさんのことを知り、ぼくは、車いすにのっている人やしょうがいのある人ができて、ぼくにはできないことに気がつきました。しょうがいのある人たちは、ぼくよりいろいろなことにチャレンジし、いたみをおまんして、まわりの人をえがおにしようとかんばっています。強くてえらいなと思います。

これから、ぼくは、しょうがいがある人もない人も、一生けんめいがんばっている人をおうえんしようと思います。車いすにのっている人がこまっていたら、ぼくは車いすをおしてあげようと思います。みんなが思いやりをもつて生活すれば、みんながえがおですごせます。ぼくは元気なので考えたことがありますでしたが、これからは、「もしも、ぼくだったら」と考えて生活したいと思います。

